

四季彩便り

2010・初夏

発行人
光が丘
堂子裕子
四季彩
見酒
漢方酒
(092)927-2693

芒種



心なしか、今年は初夏の訪れが足踏みしている感がありました。ようやく麦の収穫が始まりましたね。

麦畑のそばを通ると、刈り取られたばかりの藁の香りが初夏の風に乗って届いてきました。

翌日には黒く焼かれた畑になったり、耕されたりしています。

じきに水をたたえた水田へと姿を変え、田植えが始まるのでしょうか。

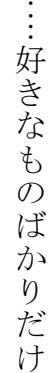
私たちはこの作物の恵みを戴いて命をつないでいるのだと、改めて感謝の気持ちでいっぱいになります。

故郷ではすでに田植えが終わり、夜の川面には、螢の乱舞が見られました。



梅雨入り間近。
貝原益軒は養生訓のなかで、「体外と体内の『湿邪』に注意せよ」と説いています。

「夏季、冷水を多く飲んで、冷麵をしばしば食べれば必ず『内湿』に傷められ、伝染病にかかったり下痢になったりする。慎むべきである。」(口語養生訓より)



ど、慎みます。(ぐすん)

四季の話題

生き物たちのいのちの営みが最も盛んな季節になりました。

今年には国連が宣言した「国際生物多様性年」。十月には名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議」(通称COP10)が開かれ、193の国や地域から1万人が参加する予定です。

先日、国立科学博物館で開催中の大哺乳類展

―陸のなかまたち―を見ました。

陸と海を合わせた地球のすべての生き物は、現在わかっているだけで約175万種。



それらの生き物が、さまざまな環境のなかで「食物連鎖」により、生態系のバランスを保っていて、私たち人間もこの生態系の一員であることを忘れてはなりません。

たとえば私たちが使っている薬の60%は、元をたせば自然の産物から作られたものです。

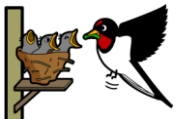
ところが皮肉にも人間の活動が生き物の絶滅スピードを早めているといわれています。

世界的な自然保護団体がまとめた「レッドリスト」によれば1万7千種の生き物が絶滅の危機に直面しているのだそうです。

私たちの住むこの地域にも絶滅に瀕している生き物がいるのです。

「いのち」を育む「水と緑」を守るためにできること…まずあなたの周りの自然に目を凝らしてみませんか？

きっとあなたも自然によって「生かされている」と気づくことでしょう。



折々の薬草

木オノキ

初夏の頃、白い大きな花を咲かせる日本特産のモクレン科高木です。

この花が咲くと、いい香りが風に乗って運ばれてきます。

昔から、葉で食べ物を包んだり、盃の代わりにとして使ったようです。

万葉集にも「ほほがしは」の名で詠われています。

皇神祖の遠御代御代は、い布き折り

酒飲みきというそ此の厚朴

大伴家持

飛騨地方に伝わる郷土料理「朴葉寿司」は

葉の抗菌作用を、「朴葉味噌」はその香りが持つ食欲増進作用を利用しているのです。

薬用には樹皮を用い、生薬名を厚朴といいますが、本来、厚朴は中国原産で、日本では近縁種である木オノキを当てています。

ときに、中国の厚朴を唐厚朴、木オノキを和厚朴と区別しています。

食欲不振や消化不良に用いる平胃散、神経症傾向で咽喉の違和感や吐き気に用いる半夏

厚朴湯に配合されています。

